

☆ミニガイド☆

ハンテアイ・スレイ遺跡

カンボジアにあるアンコール遺跡の一つで、ヒンドゥー教の寺院遺跡。ハンテアイは岩、スレイは女で、「女の岩」を意味する。大部分が赤い砂岩により建造されている。規模こそ小さいが、精巧で深くほられた美しい彫刻が全面に施されている。こうしたことから観光客には大変な人気があり、「アンコール美術の至宝」などと賞賛されている。中でもデヴァター彫像は「東洋のモナリザ」とも呼ばれている。

アンコール・ワット

カンボジア北西部に位置するユネスコの世界遺産（文化遺産）であるアンコール遺跡の一つであり、その遺跡群を代表する巨大な寺院である。建設時はヒンドゥー教寺院として作られたが16世紀後半に仏教寺院に改修され、現在も上座部仏教寺院となっている。

クメール語でアンコールは王都、ワットは寺院を意味するため、アンコール・ワットは「国都寺院」という意味となる。大伽藍と美しい彫刻を特徴としクメール建築の傑作とされ、カンボジア国旗の中央にも同国の象徴として描かれている。アンコール・ワットはヒンドゥー教の影響を色濃く受けており、もともとはブラー・ヴィシュヌロカ（ヴィシュヌの聖なる住居という意味）と呼ばれていた。ヴィシュヌ、シヴァ、ブラフマーといったヒンドゥーの神々の姿は、アンコール・ワットの多くの彫刻にも残されている。

アンコール・トム

アンコール・トムは「大きな都」を意味する。中心寺院はバイヨン寺院で、その周囲に複数の寺院や兵のための史跡が周囲を3km四方の堀と8mもの高さの城壁で囲み、王も庶民も住まう堅固な城塞都市とした。バイヨン寺院は、ヒンドゥー教におけるメール山（宇宙の中心にそびえる須弥山）を象徴化している。長い間使われていた都市の為、戦争の歴史があり、戦闘の名残や兵のための施設が多いのが特徴。

ミンソー遺跡

ミンソー遺跡はチャンパ王国が残した遺産のなかで、最も規模が大きく、最重要視された場所です。ミーソンとはベトナム語で「美しい山」を意味し、その名のとおり、聖山（サンスクリット語でマハーバルヴァータ）の南麓に遺跡が広がっている。マハーバルヴァータは地元の人々から猫の歯の山と呼ばれ、歯のように尖った頂上が特徴的な山で、かつてミンの地を聖地として崇めた人々はこの山の方角に向かって祈りをささげたと言われている。ミンソー遺跡は元々4世紀後半にヒンドゥー教シヴァ神を祀る木造の祠堂として建てられたのが始まりで、7世紀にレンガで再建された。現在残っている遺跡は、7～13世紀に建てられた約70のレンガ造りの建造物です。ミンソー遺跡では、チャンパ王国の名残だけでなく、ベトナム戦争の爪痕も見ることができる。ミーソン遺跡でも貴重な発掘品が爆撃で大部分が破損してしまい、ダメージを受けた建造物が、戦争の悲惨さを物語っている。

ティエンムー寺院

1601年に建立された、フエで最も古く美しい寺院。ティエンムー寺院を漢字で書くとティエンは「天」、ムーは「姥」を意味し、名前の由来は、広南朝までさかのぼる。太祖グエン・ホアンは国を開くためにこの地を訪れた際、村民から伝承を聞き、その伝説では、ある夜に赤い衣と緑色の裾を着た一人の老婆が丘の上に現れ人々に「いつかここに真の主がやって来て、霊気と龍脈をあつめ強力な国をつくるために、寺を建てるであろう。」と語ったそう。

これを聞いたグエン・ホアンは民衆の願いを叶えることができるように、また慶事の知らせに感謝をして、フォン川に面する丘の上に寺を建て「天姥（ティエンムー）寺」と名付けた。この寺院では美しい景観と庭園、そして穏やかに流れるフォン川の風景が楽しめる心地よい寺院です。

申 込 書

キリトセン

フリガナ		男 ・ 女	旅券について 有 無 有る方：番号 発行日 年 月 日
パスポートと同じローマ字			
現住所	〒	TEL： 携帯：	
職業	生年月日： 年 月 日		
勤務先住所			
お一人部屋希望：	<input type="checkbox"/> 有（別途追加料金 ¥ 45,000）		<input type="checkbox"/> 無 同室希望者：
旅行保険	弊社にて海外旅行保険（任意）申し込みを 希望します・希望しません ＊弊社にて加入されない場合でもご自身にて必ず同様の海外旅行保険にご加入下さい。		